

一般公募『恐竜の島 淡路島で7200万年前の化石採集体験』の意義と成果

ひとはく連携活動グループ 兵庫古生物研究会

まえがき

私たち兵庫古生物研究会は、古生物を愛し、地質学的・古生物学的知見を高めるとともに、微力ながらも関係分野・学問領域への貢献ができればと願う化石愛好家団体である。会員個々人の研鑽だけでなく、兵庫古生物研究会として人と自然の博物館のお力添えのもと研修の場を設けたり、兵庫県内や近隣の府県での巡検や調査活動も行ったりしている。また、研究会の発足以来、社会貢献の一環として、化石を核とした地域連携の取り組みや小学校での出前授業、公民館などでの化石展示会の開催など、広く社会との繋がりを大切にしたい取り組みも継続・実施してきている。今回ほど大々的ではないにしても、一般の方々を対象とした化石採集体験も数回開催してきた。これら取り組みも踏まえ、改めて今回の化石採集体験会の意義について考える。

開催の経緯

2004年5月に本会代表の岸本眞五氏が兵庫県初の恐竜化石を淡路島で発見した。

それから17年後の昨年(2021年)4月、北海道大学の小林快次教授らの研究により、新属新種であることが判明し『ヤマトサウルス・イザナギイ』として発表された。これを受けて、兵庫古生物研究会としても何か記念イベントを開催したいと考え、我々が定例化石調査を行なっているフィールドの地権者の方をお願いしたところ、快く了解を戴いた。

開催にあたっては、地権者のご厚意により広く安全な採集場所を整備して戴けることになったため、子供たちのための初心者向け採集会を一般公募で開催することとなった。

今回のイベントは博物館にも協力をお願いして以下の体制となった。

主催：ひとはく連携活動グループ 兵庫古生物研究会

共催：兵庫県立人と自然の博物館

後援：洲本市立淡路文化史料館

参加者募集にあたり、人と自然の博物館また淡路文化史料館のホームページでのアナウンスのほか、募集パンフレットを以下の公的機関に置かせて頂いた。

人と自然の博物館、淡路文化史料館、姫路市立科学館、きしわだ自然資料館、姫路市立安室東小学校

募集と参加者人数

募集人数：60名 応募人数：108名(抽選により70名に絞り込んだ)

当日参加者：一般参加者67名、スタッフ32名(計99名)

スタッフとして協力戴いた公的機関：(兵庫古生物研究会を除く)

人と自然の博物館、淡路文化史料館、姫路市立科学館、鳥取県立博物館

PRにご協力戴いた機関、スタッフとしてご協力いただいた皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

恐竜の島
淡路島で7200万年前の化石採集体験
参加者募集

初心者向けのイベントです。

国生みの島 淡路島で、恐竜時代の白亜紀後期 およそ7200万年前の海にすんでいた生き物たちの化石を採集してみませんか？

開催日 2021年12月12日(日) 小雨決行
開催時間 10:30~14:00 (集合 9:30)
体験場所 兵庫県洲本市内

参加資格 現地集合となりますので、参加者自身で集合地までお越し頂ける方
小学4年生(10才)以上で未成年(18才未満)は保護者同伴となります。
尚、参加者には 別途の「参加同意書」の提出をしていただきます。

参加費 一人当たり 500円 (保険料含む)

募集人員 保護者の方を含め 60名 (定員を超える場合は抽選となります。)

受付方法 電子メールでの受付となります
(申し込みはpdfファイル受信可能なアドレスをお願いします。)

● 申し込み先
兵庫古生物研究会 メールアドレス
hyokoken2015@gmail.com
参加者の氏名・住所・年齢・携帯電話番号・メールアドレスを必ず記入。
ご家族で参加される場合は参加者全員の氏名・年齢を記入してください。

受付期間 2021年10月20日(水)~2021年11月20日(土)

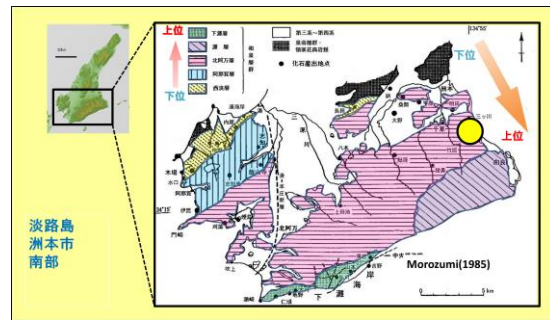
集合場所・当日の持ち物について 詳細は 参加決定者に後日お知らせします。

注意事項 コロナウイルス感染症対策(マスク着用など)参加者各自の責任でお願いします。
また、感染状況によっては開催中止となることもありますのでご了承ください。

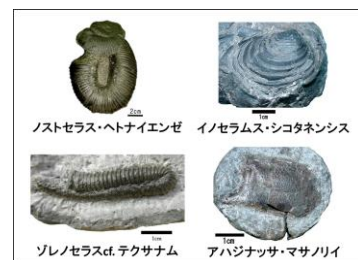
主催 D&D連携活動グループ 兵庫古生物研究会
共催 兵庫県立人と自然の博物館
後援 洲本市立淡路文化史料館

開催地の地質

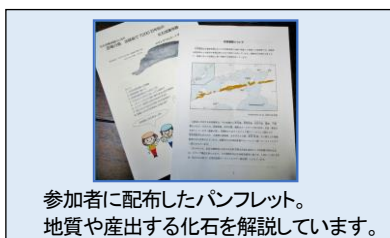
今回のイベントの開催地は淡路島洲本市の南部に位置し、Morozumi (1985)によると、白亜系和泉層群北阿万層に相当する領域である。本地域に分布する北阿万層の地層の走向は、大局的に北東-南西方向であり、南東方向に約20°～50°で傾斜し、南東にかけて上位の地層が露出する。これは淡路島の和泉層群全域の傾向と一致する。岩相は最下部のタービダイト互層の上位に厚い硬質の白色砂岩、顕著なスランプ構造を示す砂岩泥岩互層が重なる。さらに中部から上部にかけて主に砂質泥岩が露出し、フィコサイフォンやサンドパイプといった多くの生痕化石が観察され、海生動物化石が多く産出する。また、稀に厚い砂岩を挟み、脊椎動物の骨化石が見つかることもある。今回のイベントが行われた場所は、図中の であり、本地域の中部の砂質泥岩が露出するポイントである。



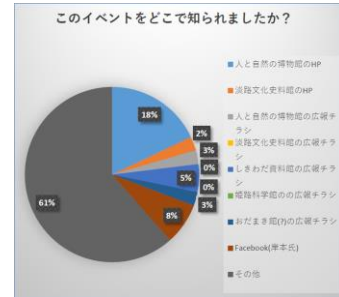
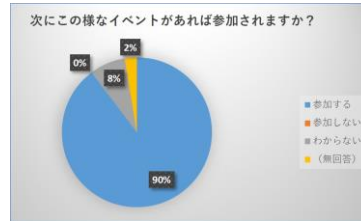
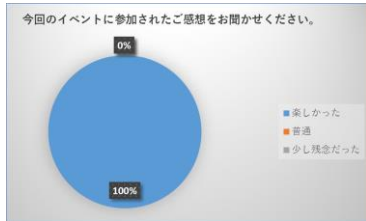
今回のイベントが行われた地点では以前から保存の良い海生動物化石が産出している。特に砂質泥岩の母岩中、あるいは石灰質ノジュールより異常巻きアンモナイトのノストセラス・ヘトナイエンゼおよびゾレノセラス cf. テクサナム、二枚貝のイノセラムス・シコタネンシス、甲殻類のアハジナッサ・マサノリイ、ウニ類のヘリオキダリスなどが比較的多産し、魚類やモササウルスなどの海棲爬虫類も稀に産出する。特にノストセラス・ヘトナイエンゼは、本邦白亜系最終期であるマーストリヒチアン期の始まりを示唆する重要な種であり、本地域以外では北海道鶴川地域のみでの報告に限定されている。これらのことから本地域は白亜紀後期の化石層序を明らかにするための非常に重要な地域であり、今回のイベントは夢を抱いてドキドキしながら化石の発掘ができるとても貴重な体験を行う機会になったといえるだろう。



開催風景



アンケート集計結果



ご意見・ご感想（一部抜粋）

- ・最高に楽しかったです。アンモナイトを掘るのが夢でした！ありがとうございました。
- ・古生物学者が夢なのでこういうイベントは嬉しいです。ありがとうございました。

開催の意義

① 社会との繋がりを重視する視点から

化石採集においては、第一に地権者の理解が必要である。理解なしに立ち入り採集することは違法行為であり、不法侵入・窃盗罪に当たる。産地自治会などへの説明責任も不可欠である。見ず知らずの大勢の者が（多くの車が）なんの断りもなしに生活圏内に入ってくれば、地域の方々の眼には異様な光景としか映りえない。そのため、自治会長や区長への事前連絡を欠かすことはできない。今回の化石採集体験会開催も、現在までの地権者との繋がりの延長上に位置していると捉えている。今回は地権者のご配慮により、参加者が採集活動しやすいように露頭を広げていただいたことがその表れである。今までの丁寧な繋げる活動の結果もたらされたものであった。自分勝手な化石採集者では、地権者や地域との繋がりは築けない。「採集現場にゴミを残さない。元あったように現状復帰する。」など、地権者や地域の感情に配慮した活動が求められる。繋げる活動が、今回の化石採集体験会開催の基盤にはある。

② 「体験」の重要性の視点から

今回の事業のキーワードとして「一般公募」「体験」の二つの言葉を掲げている。そこには、『窓口を広く大きく開けて、化石採集を楽しんでもらいたい』まさに体験してもらいたいとの思いがあるからである。「化石に興味関心はある。しかし、次の一歩が出にくい大勢の方々。」兵庫古生物研究会は、そのような方々の小さな後押しをしたい。

当日研究会の会員は、参加者に石の見方や割り方、ハンマーの使い方を指導したり参加者の見つけた化石の同定をしたりした。経験者が参加者の最初の第一歩を支援した訳である。開催後のアンケート（上記アンケート集計結果参照）による参加者の声にもあるように、本研究会の狙いと参加者の願いがまさに一致した事業となった。

体験に勝る「本物」はない。兵庫古生物研究会は「本物」を提供したい。

今後の課題

今回のような大掛かりな化石採集体験会を今後どれほど開催できるかは別としても、社会貢献の一環として繋がるための採集会開催は継続していきたいと考えている。最初の第一歩をお手伝いしたい思いは変わらない。一方で運営上の不備な点も多々あった。次回には、今回の反省点や課題を踏まえて改善していきたいと考えている。